

どうして君はクワガタじゃないんだろう？

ねえ、君。そう、君だよ。この本は、君だけに向かって語りかけているんだ。

どうして君は、君なんだろう？ どうして君は、この本を読んでいる人なんだろう？

変なことを聞くなあとと思ったよね。でもちよつと待つて。本をとじないで、一緒に考えてみてくれないかな。

学校に行くと、クラスの担任の先生がいるよね。その先生は、君じゃない。でも君は、その先生として生きていてもよかったはずだよ。

君はクラスの担任の先生で、学校で勉強を教えたりしていてもよかったはずなんだ。それなのに、君はその先生じゃない。どうして君

は、その先生じゃないんだろう？ どうして君は、この本を読んでいる人なんだろう？

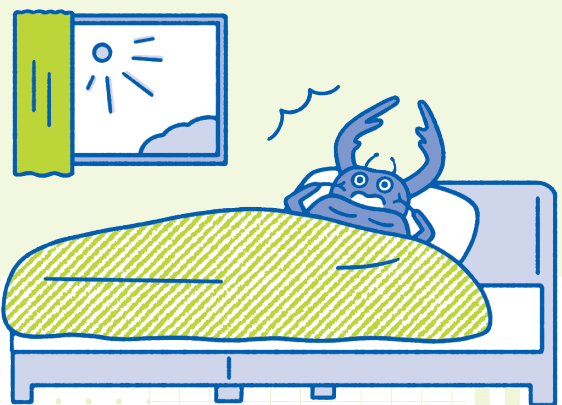
山に行くと、クワガタがいるよね。クワガタは、君じゃない。でも君は、クワガタとして生まれてきて、

クワガタとして生きていてもよかったはずなんだ。そう思わないかい？

それなのに、君は、この本を読んでいる人として生まれてきて、この本を読んでいる人として生きている。それはどうしてだろう？

ふしぎな気持ちから哲学をはじめよう！

ふしぎな気持ちになってきたかな？ なってきたなら、いい調子。哲学は、ふしぎな気持ちになることが



# もくじ

はじめに	君というふしぎ	2
1	一人しかない君	7
2	君の痛みについて考えてみよう	13
3	生まれ変わりについて考えてみよう	31
4	君と宇宙	47
さいごに君へ		65
解説と本の紹介		68



らはじまるんだ。

ふしぎな気持ちになったら、その気持ちを大切に、こうなのかな、それともこうなのかなと、いろいろ考えてみる。それが哲学なんだ。

どうして君は、この本を読んでいる人なんだろう？ クラスの担任の先生でもよかったのに。クワガタでもよかったのに。このふしぎを大切に、これから一緒にいろいろ考えてみよう！

君っていったい何だろう？

もしクワガタとして生まれていたら……って、想像できるかな。もし君がクワガタとして生まれてきて、クワガタとして生きていたら、この本を読んでいる人は君じゃなかったことになるよね。

そのとき、この本を読んでいる人はいる。でもその人は、君じゃない。君はクワガタとして生きているんだ。

そういうことがあってもよかったんだとしたら、君はこの本を読んでいる人と、まるっきり同じではないことになるよね。

そうだとしたら、君っていったい何だろう？ この本を読んでいる人がいるのに、君がその人じゃなくてもよかったんだとしたら、君っていったい何だろう？

どうして君は一人しかいない？

この本を読んでいる人が生まれたとき、君はその人に宿った。だからその人は君になった。

君は、ほかの人や生き物には宿らなかった。だからほかの人や生き物は君にならなかった。君はこの本を読んでいる人だけに宿ったんだ。どうして君は一人しかいないだろう？ どうして君はたくさんいないんだろう？

そもそも、君がたくさんいるって、どういうことかな。君はこの本を読んでいる人で、君はクラスの担任の先生でもあって、君はクワガタでもあって……っていうことかな。

そんなの、わけがわからないよね。君はクラスの担任の先生として生きていてもよかったはずだけど、そのときはそのときで、君は一人

ただだね。君がいつべんにたくさんいるなんて、考えられない。

かりに、君とまったく同じDNAをもった双子やクローン人間がいたとしても、その人は君じゃないよね。やっぱり、君は世界に一人しかないっていうことになりそうだ。世界に一人しかない君は、クラスの担任の先生や、クワガタに宿ってもよかったはずだけど、なぜか今は一人の人に宿っているんだ。

## 死んだら 死後の世界に行く？

君は、今は一人の人に宿っている。じゃあ、遠い未来はどうだろう？

この本を読んでいる人がいつか死んだとき、君はど

こに行くんだろう？

そのとき君は、死後の世界に行くのかな。もし死後の世界に行くとしたら、それはどんなところだろう？

天国みたいな、いいところだといいいね。それとも想像もつかないような、ふしぎなところかな。

死後の世界がどんなところなのかはわからないけど、

もし死後の世界に行くとしたら、君はそこで、何かを感じるはずだね。それが光なのか、音なのか、あたたかさなのか、何なのかはわからないけど、とにかく何かを感じるはずだね。

もしそうだとすると、「何かを感じるのが君だ」って言えるのかな。「何かを感じる君」は、今はこの本を読んでいる人に宿っていて、君はその人として、いろんなことを感じている。その人が死んだら、「何かを感じる君」が、死後の世界に行くのかな。

